

映画産業のチカラ

大阪府立岸和田高等学校

勝本 達騎

要旨

近年、日本映画が国際映画祭などで高い評価を受けている。さらに興行成績も順調であるようだ。映画産業は世界的に見て市場が拡大している。では、映画産業が社会に与える影響とは、どのようなものなのか。どのくらいの程度のものなのか。映画産業が社会に及ぼす影響について吟味し、映画産業の振興と社会との相関性から、映画産業の振興の今後やその可能性を見出すことを本研究の目的とする。その結果、映画産業が経済面、文化面において重要な地位を担う産業であることが判明し、社会における映画産業の発展の重要性についても確信できた。

1. 序論

私は映画が好きである。映画界の動向に目を向けていると、近年、日本映画の活躍が目立つように思われる。海外の映画祭で多くの日本映画が表彰され、アニメーションを中心に映画産業が日本のポップカルチャーの発信源となっているといっても過言ではないだろう。また国内でも、映画に対する評価は高まってきている。そこで私は映画産業の「今」について把握し、その「未来」について検証したいと思い、本研究に着手した。さらに今後の映画産業の活性化についても、提言したいと思う。

2. 考察

I 映画『君の名は。』の興行成績から

『君の名は。』は新海誠の6作目の劇場用アニメーション映画。東京に暮らす少年・瀧（たき）と飛騨の山奥で暮らす少女・三葉（みつは）の身に起きた「入れ替わり」という謎の現象と、1200年ぶりに地球に接近するという架空の彗星「ティアマト彗星」をめぐる出来事を描く。2016年8月26日公開。

- ・興行収入は250億3000万円。日本映画の中では『千と千尋の神隠し』に次いで歴代2位につけた。このように歴史的な数字を記録したことによって、後世まで人気が続出し、DVDやブルーレイディスク、地上波放送、映画関連グッズなど長期間にわたって売り上げが伸びた。地上波放送では、総合視聴率26.3%を記録した。
- ・映画産業は観光産業などに良い影響を与える。映画『君の名は。』が公開されたのは平成28年8月26日である。下図の(表1)より、27年から28年にかけて観光消費額が伸びていることがわかる。このことは、公開から年末にかけて聖地巡礼者（映画ロケ地を巡る観光客）が訪れたことによる数字の飛躍であると推測される。毎日新聞でも『君の名は。』効果について取り上げている。

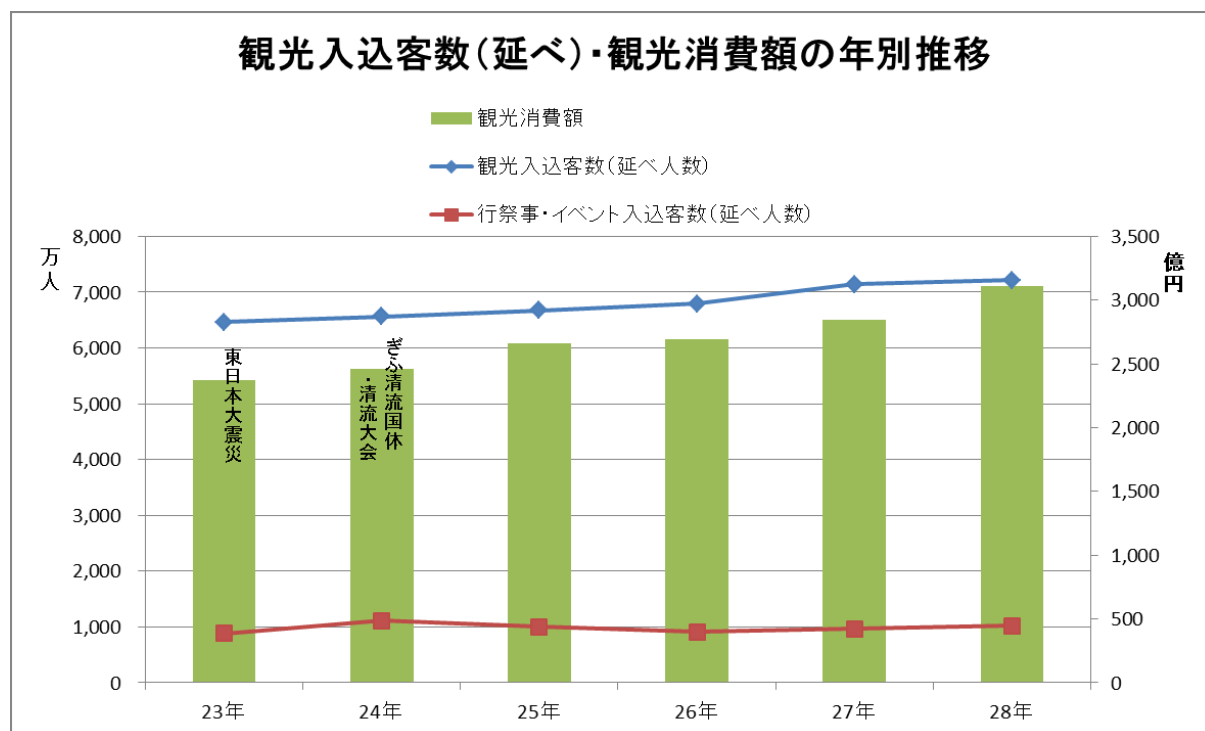
【毎日新聞地方版記事2017年3月8日より】

「飛騨市は7日、2016年の観光客数が100万5881人と前年より3.6%増えたと発表した。飛騨地方を舞台のモデルにしたアニメ映画「君の名は。」が大ヒットし、映画のシーンにそっくりの場所を訪れる“聖地巡礼”でにぎわった効果が大きく、3年ぶりに100万人の大台を回復した。」

【平成 28 年岐阜県観光入込客統計調査より】

平成27年3月の北陸新幹線延伸開業以来、前年に引き続き飛騨地域の主要観光地の入込客数が伸びており、特に、白川郷合掌造り集落は前年比16%増で順位を4位に上げている。暖冬の影響により冬期でも道路状況が良かったことや、北陸新幹線延伸開業をふまえ、金沢～白川郷間的高速バスが増便されたこと（平成28年4月）、そのほか、映画「君の名は。」（平成28年8月公開）のヒットにより、舞台のモデルとなった飛騨地域への注目度が高まったこと等が入込客の増加につながったと考えられる。

表 1（岐阜県ホームページより）



- ・映画産業が世界へ日本のポップカルチャー（アニメーション作品・漫画など）を売り込むツールになる。また、溝口雄三氏の『中国の衝撃』に、「日中関係に関わる‘イメージ’ばかりが先行する現状では、問題解決に到達できない」との一般論があるが、中国との長年にわたる領土問題（尖閣諸島をめぐる問題や靖国神社問題）などの緊張関係があるにも関わらず、中国で爆発的ヒットを記録したことから、日本に対するイメージが良好になり、映画産業が国交回復のヒントとなるのではないかと（『君の名は。』は中国で日本アニメの興行収入記録を塗り替えた。約 95 億円超。）。

II 映画『アナと雪の女王』の大ヒットから

『アナと雪の女王』（原題：Frozen）は、ウォルト・ディズニー・アニメーション・スタジオ製作による 2013 年公開のアメリカ合衆国の 3D コンピュータアニメーション・ミュージカル・ファンタジー映画。第 86 回アカデミー賞・長編アニメ映画賞、歌曲賞などを受賞した。

・TV放送、ディズニーランドなどのテーマパークの増収、スマートフォンアプリによる日本の携帯電話事業の増収などから、映画産業は他の産業の振興との相関性が強いことが言える。このことは、考察Iで述べた理論が確かであることが保証される。

i ディズニー社の純利益が前年同期比 27%増の 19 億 1700 万ドル (約 1950 億円)

ii CATV・放送部門は売上高が 4%増、営業利益は 15%増。「ディズニーランド」などのテーマパーク部門は米国の値上げや来場者増などで 8%の増収。営業利益は 19%増。

iii キャラクター商品などを販売するコンシューマープロダクツ部門も「アナ雪」効果で 16%増収、営業利益は 37%増えた。インタラクティブ部門は新作ゲームの「ディズニーインフィニティ」や日本の携帯電話事業が引き続き好調で、38%の増収。

III 「アカデミー賞授賞式」から

映画界にはカンヌ国際、ベネチア国際、ベルリン国際の世界三大映画祭があるが、歴史と知名度においてはアカデミー賞の方が上で「映画界最高の栄誉」といわれるので、ここではアカデミー賞授賞式を扱う。

・世界各国からロサンゼルスへの来訪者が集まることから航空産業の収益の増加、衣装にかかる莫大な費用によりアパレル産業の収益の増加が見込まれる。また、それぞれの収益が極度に上がることから、映画産業の振興は他の産業の振興との関連性が高いことがここでもわかる。

・授賞式においての受賞者によるスピーチが世界に発信されることにより、黒人差別などに対しての様々なメッセージが全世界に広がり、問題解決の糸口となるのでは。

(例)アカデミー作品賞受賞作品『それでも夜は明ける』の

監督スティーブンマックイーン氏の受賞スピーチより一部抜粋

「誰もが、生き延びるだけではなく、普通の暮らしを送る権利がある」

「今もなお、世界では 2,100 万人もの人たちが奴隷として苦しんでいる。本作で描かれた問題が決して過去のものではないことを訴え、作品賞の栄誉を奴隷制度に苦しむ人々に捧げる」

3. 結論

観光産業、国交、日本のポップカルチャー、企業、世界など社会に存在する様々なものと密接に関連しているのが映画産業である。映画産業の発展が、これらすべてに効果をもたらし、今後の日本の経済、文化、国交、産業、社会問題などに良い影響を及ぼしていけると推測できる。だからこそ映画産業を活性化させていく必要があるので、自ずと映画産業の市場は拡大していこうというのが本論文においての結論である。

4. 展望

シネマ作品内での観客の体験は、現実世界にも影響を持つ。観客はシネマ作品を鑑賞し、出演者と同じ空気を吸い、同じ体験をして彼らとともに喜怒哀楽する。つまり、自分以外の様々な人生を体験できることになる。そこに映画最大の魅力が詰まっていると私は考える。そんな素晴らしい映画産業の発展により、人間の心だけでなく、社会も豊かになればと思う。また、映画産業界もさらなる活性化に向け努力し、世界規模での市場を展開していき、観客の心をつかむ作品が次々と生まれ、世界中の人々が映画を楽しめるような日が来ることを願っている。

5. 引用文献・参考文献

- ・「“君の名は”による経済効果」
(<http://sugimag.com/2016/11/13/your-name-economic-effect/>)
- ・「日本経済新聞・アナと雪の女王」
(http://www.nikkei.com/article/DGXNASGN0700M_X00C14A5000000/)
- ・「経済効果 2300 億円超！アカデミー賞授賞式セキュリティ強化の背景」
(<https://movie.smt.docomo.ne.jp/article/437258>)
- ・岐阜県 HP 「観光統計」
(<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/kanko/kanko-tokei/s11334/28kekka.data/H28kankotoukei.pdf>)
- ・溝口雄三『中国の衝撃』（東京大学出版会/2004）